

リープス

家

Leaves vol. 13

平成 25年 7月 10日

(はっぱたち)

発行 リープス(通級保護者の会)編集部

～みんなちがって みんないい～

担当 川島(緑野小) 永田(第五小)

みなさんこんにちは。Leavesは今年度 5 年目を迎えます。いつも読んでくださってありがとうございます。

「東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画」のモデル事業に狛江市が選ばれ、24 年度の三学期より、市内のすべての小学校で児童が自校に通級出来るようになり、通級の幅がひろがっています。

そんな中、第六小学校では「ひまわり教室」の保護者の思いを校長先生が汲み取ってくださり、なんと！第六小学校でも、Leavesのひまわり学級バージョンの配布が決まりました(^_^)

市内六校あるうちの、三校で、Leavesを読んでいただけるのがとても嬉しく、より良い相互理解につながることを、心より願います。

さて！今回のLeavesは…前回のLeavesを読まれた読者より「ソーシャルスキルってどんなことをしているのか知りたい。」といったご意見をいただきました。そこで、ソーシャルスキルトレーニングの一部を、経験からでしかお伝えできませんが…とりあげさせていただきます。



ソーシャルスキル(社会技能)ってな～に？

社会の中で自立し、主体的であるとともに他の人との協調を保って、

生きるために必要とされる生活上の能力

まあ、簡単に言えば、人も自分もお互いに気持ち良く過ごすためのコツ

かのう。イギリスでは、PSHE(人格的・社会的健康教育)という名前の教科があるそうじゃ。こうした能力の育成を図っている国もあるんじゃな～。



具体的にはどんなことをしているの？

〇〇

ソーシャルスキルトレーニングには様々な種類があります。「個々にあったスキル」ですから当たり前なのですが…支援を受ける中であらためて意識すると、生きるために必要な能力ってほんとにたくさんあるんだと思います。人と関わり、喜んだり怒られたりする中で身についていくお子さんもたくさんいますが、「相手の表情を読み取ること」「推測して考えること」「自分の気持ちを人に伝えること」「自分の気持ちを認知すること」などが、みんなよりちょっと苦手。なんとなくは分かるんだけど、感覚が過敏だったり、鈍感だったり、一度にたくさん刺激を受けやすかったりするこの子たちには、その時感じた気持ちを整理するのもほんとうに一苦労。そんな中、パニック（泣く・怒る・自分を極端に責める、など）を起こしやすかった児童の、中学年の頃にいただいたソーシャルスキルトレーニングをご紹介します。

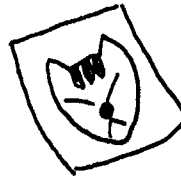
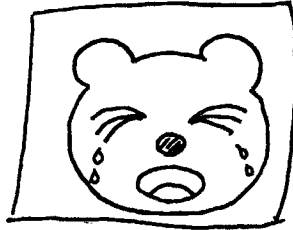
動物の森 〇〇村

（〇〇には通級学級の名称が入ります。）

◆ << 動物の森 〇〇村 >> の 方法と説明 ◆

動物の森の〇〇村で 泣いている動物がいます…<イラストを参照してイメージしてください>

- あれれ？どうしたの
- その時の気持ちは？
- どうしたらいい？



…ひとつひとつ、その時の動物くんの気持ちを想像し、どうすれば良かったかを考え、自分の気持ちで言葉にする！といったことを、気持ちを引き出しやすい環境で行います。

一見単純なことのように思えるが、ゆったりとした静かな環境でちゃんと聞くと、この子たちなりの感じ方が手に取るようにわかるんじや。この経験が実際の生活の中で、相手の表情を読み取り「もしかしたら、こんな気持ち？」「どうしてあげたらいいのかな？」と思ったり、「自分だったら、こう思うけど…」と、意識して、自分の気持ちを考えたりする練習にもなる。抽象的な表現（ことばだけの説明）は理解に時間がかかるが、視覚からの情報だと目に見えるので理解しやすい子が多い。また、自分の気持ちを言葉にして、文字で書くことで、あらためて気持ちの流れをつかんだり、「ああ、自分はこんな時、こう思うんだ！」と、自分の気持ちの認知につながったりもするんじや。単純なことのようにじやが、ほんとうに奥がふかいの～。



☆ 動物の森 で、実際に児童が書いた「気持ち」を 一部ご紹介します ☆

=泣いているくまの絵をみて=

○あれれ?どうしたの?

「うさぎくんにわる口いわれた」

○その時の気持ちは

ひどい。「できないんだもん」

○どうしたらいい?

うさぎが「わる口いってごめんね」くまが「いいよ」っていう。



=怒っているリスさんの絵をみて=

○あれれ?どうしたの?

ぞうに「おまえ小さいな」といわれた。

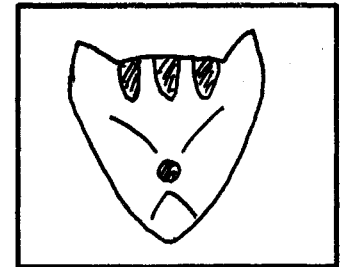
○その時の気持ちは

「あたりまえだ!」「しょうがないじゃん」

○どうしたらいい?

ぞうが「ごめんね」とあやまる。

りすが「いいよ、もういわないでね。」



様々な場面でどうしたらいいか...こうやってくりかえしソーシャルスキルトレーニングをやっていく中で、色々な考え方や、生きていく力を身に付けていくのです。

他にも、自分自身を見つめなおし、作文にしながら自分や相手の気持ちを振り返る「ふりかえりの作文」や、自分自身が研究員となり自分の苦手なことを発見!対処するにはどんな方法があるか?を研究しながら考えていく「〇〇研究所」などなど、いろんなソーシャルスキルトレーニングがあります。

支援して下さる先生方が個々にあった支援を考え、プログラムを組み、それを元に行ってくださいます。もちろん、個別指導でも有効ですが、小集団指導で行うと他者の感じ方や考え方も知ることができ、より、効果的です!

お母さんの気持ち~...



《どうぶつの森》で、怒っているリスの絵を見て「絵がうまくいかない時」と想像...

「どうすればいいのさ」「なんでだよ」と思うのですが、「他の絵を描く」「べつの事をする」

というのもありました。「他の絵をかく」「べつの事をする」って...課題や、授業中だったりすると、どうなるんだろう?と思いました(笑) 先生も、他の児童の手前、きっと困るはず...(^;)

当たり前が当たり前にならないことが多く、毎日振り回されています(^;)

それでも、この子たちなりにさまざまなことを頑張っていて、この子たちなりのよいところもたくさんあります。よいところをぐんと伸ばし、苦手な事が対処できるようにしてあげたいと思います。

《ふりかえりの作文》やってもらって良かったです。トラブルをふりかえって、友達や自分の発言を思い出し、自分がカッとなった状況について考えたり、友達の気持ちを想像し、自分の気持ちを確認してから、どうすればよかったか、これからはどうするかを作文にまとめるのです。この作文、5～6本書いているのですが、母親が事情聴取(笑)してもちゃんとこたえなかったりするし、授業として個人の問題に取り組めるのは、通級学級の特権ですね。友達の気持ちを想像するのが、効果的だったのかな。物事を順序立ててならべるのも、いい訓練になったと思います。《〇〇研究所》の取り組みで、自分にはどんな特性があるかを把握して、対策考えたのも良かった！周りと比較ではなく、自分の課題に取り組むにあたり、自己認識や、自覚が大事だと思うから。



こんな本もあります☆

『 特別支援教育をサポートする

＜図解＞よくわかるソーシャルスキルトレーニング(SST)事例集』

監修者 上野一彦 著者 岡田 智・森村 美和子・中村 敏秀

☆本市の先生もこの執筆に携わっています☆

編集後記

いかがでしたか？「ソーシャルスキル」という、聞き慣れない、舌を噛みそうなものを少しでもご理解いただけたらと、情報ぎっしりになってしまいました。先生方のたゆまぬ研究と実践により、積み上げられたトレーニングのほんの一端をご紹介させていただきました。考えてみれば、生活というのは、まさに自分の気持ちを表現し、人の気持ちを受け止めることの連続です。ここでつまずくと、人と繋がるのが困難になってしまう。そんな「孤独な子ども」。一人でもなくしたいです。

「こんなこと、教えないと出来ないの？」と思った方いらっしゃいますか？最初、私もそう思いました。ちょっと考えりゃ、分かるんじゃないの？考えてないだけなんじゃないの？って。

違ったんですね。問題を抱えた子でもコツを粘り強く、その子のペースに合わせて教えると進歩があるんだ、と我が子の成長を感じた時、気がついたんです。私こそ、我が子にとって、気持ちに寄り添わなかったのかもって。残念な事に、頭で分かっても実践は難しく、ついつい叱りとはしては反省。素敵なママになるべく今日も修行中であります。今年度もよろしく願いいたします。